
カレー嫌いマン

白虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カレー嫌いマン

【Nコード】

N2696A

【作者名】

白虎

【あらすじ】

カレーってマジおいしいっすよね

（前書き）

何か勢いだけで書きました。今までに無い程の脱力感で読んでみて下さい（＾－＾）；

舞台はインド。この世にカレーがある限り、今日もあいつは現れる！
そう、彼の名は……！

カレー嫌って40年、カレーなんて甘くていい！

カレー嫌いマン……！

「さあみんな、カレーを作ったからお食べ」

広場の中央で子供達にカレーを配る男がいる。

「わーい！おっちゃんありがとう！」

「はっはっは、いいんだいいんだ君達もお腹が空いているだろう、
たーんと食べなさい」

「はい」

月イチでこの場所でカレーを配るこの男、家庭はとてつもなく裕福
で、カレーを配る事なんて朝飯前なのだ。

そんな男の前に、アイツが来ない訳が無い！

「てめえコラアアア！誰に断ってカレーなんぞ配ってんだんなろ
オオオオ！」

颯爽と現れたその男を見て子供達は言った！

「うるさい黙れ好き嫌いマン！」

「好き嫌いマンではない！カレー嫌いマンだ！おのれカレーを配る
男め、もう子供達を洗脳したか！」

それを聞いた男は言った。

「あ、カレー食べますか？」

カレー嫌いマンは激怒した。

「子供達だけでは飽き足らずこの私にまで！？カレー恐っ！」
それを聞いた子供達は諭すように言った。

「哀れ……」

しかしカレー嫌いマンはそれしきでへこたれる男では無かった。

「とにかくこの世からカレーが消えるまで私は戦い続ける！そんな

本格スパイスをふんだんに使った程良い辛味の激ウマカレーなんぞがあるから俺の家は……俺の家はアアアア！」

突然泣き叫ぶ50代のカレー嫌いマンに、カレーを配る男は優しく、ナンでカレーを包み込むように言った。

「大丈夫です、カレーは嘘をつきません。過ちを認めさえすればあなたもきつと……」

「カレーを配る男……」

捨て猫が拾われた時のような目でカレー嫌いマン（つかぶっちゃけただのおっさん）はカレーを配る男を見つめた。

その時だった！おっさんの眼光が鋭く輝いた！そう、まるで借金の回収に來たその筋の人のように！

50代と思わせない（つか人間レベルじゃねえ）スピードでおっさんはカレーの鍋へと走り出した！

「野郎！俺達のカレーに何かするつもりだ！止める！」

子供達は必死のディフェンスでおっさんことカレー嫌いマンを止めようと試みた。

しかしおっさんのフットワークは半端ではなかった。そう、まるで獲物を追うチーターを3倍速で見ているような感じだ！

そんなおっさんを、まだ小さい少年達が止められるはずも無く瞬間的に鍋の前までたどりついた。

「や、やめろオオオオ！」

しかしすでに遅かった。おっさんは絵の具の空チューブにせっせとカレーを詰め始めたのだ！そして一言。

「ほらほら、この絵の具カレー色だよ」

やっちまった……完全にスベった！こうなったら逃げるしかない！「ではさらばだ！」

「野郎！」

カレー嫌いマンは（ってかもうおっさんでいいよね？）あのチーターの3倍くらいのスピードでビューって走って行きました。

ありがとうカレー嫌いマン！頑張れカレー嫌いマン！この世に激ウ

マカレーがある限り奴は戦い続けるだろう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2696a/>

カレー嫌いマン

2011年10月2日23時12分発行